

SDロガー4 取扱説明書

ベーシック版

DT-MC04-XS

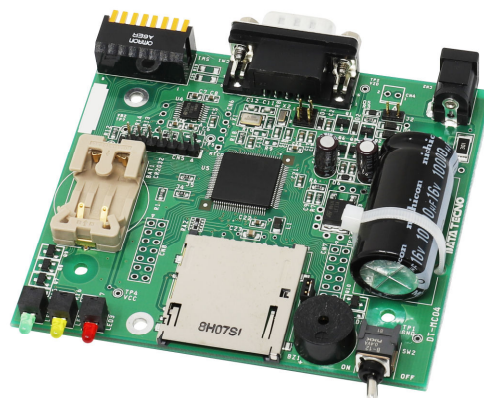
DT-MC04-XC

DT-MCK4-XS

DT-MCK4-XC



【ケース入り (ケースタイプ)】



【基板のみ (基板タイプ)】

株式会社データ・テクノ

京都市下京区西七条東御前田町48番地

URL: <http://www.datatecno.co.jp/>

〒600-8898 TEL:(075)313-3275 FAX:(075)314-0576

- ・本取扱説明書の内容は、改良のため予告なく変更することがあります。
- ・最新の情報は、弊社ホームページでご確認ください。

目次

I	概要・仕様	4
1.	概要	4
2.	バリエーション	5
3.	コンフィギュレーションモードによる設定変更	5
4.	仕様	6
5.	各部の名称	7
II	設定	9
1.	ディップスイッチ設定とコンフィギュレーション設定	9
2.	ディップスイッチ	11
III	接続	13
1.	RS-232Cケーブルの接続	13
2.	電源	14
IV	使用手順	15
1.	使用手順	15
2.	LED表示・ブザー鳴動	16
V	ファイル	17
1.	ファイル制御システム	17
2.	ロギングファイル【スクリプト版】	17
3.	サブディレクトリ	17
4.	ファイル数の上限	18
5.	コマンド版のファイル仕様【コマンド版】	18
6.	スクリプトファイル【スクリプト版】	18
7.	書き込みスピード	19
VI	電源遮断への対応	20
1.	オートシンク機能	20
2.	コンデンサーバックアップ	20
VII	その他の機能	21
1.	日付時刻設定	21
2.	ジャンパースイッチ	21
3.	フロー制御	23
4.	メンテナンス情報	23
VIII	強化された機能・ロガー3との違い	24
1.	高速ビットレートが追加されています。	24
2.	ステータスファイル	24
3.	カードからのアップデート	25
4.	スクリプトと受信データの同期	25

5. 通信エラーの自動クリア	25
6. その他の強化点.....	26
7. ロガー3との主な違い.....	26
IX 外形寸法図.....	27
X 注意事項・その他.....	28

I 概要・仕様

1. 概要

【スクリプト版】

SDロガー「スクリプト版」は、シリアル通信(RS-232C)から受信したデータを、SDカードに保存することを基本機能とする装置です。

カードに保存されたデータは、市販のカードリーダーを使用することで、パソコンで読み出せます。

また、基本機能に加え、独自のスクリプト言語で、スクリプトを記述することにより、機能を拡張できます。

一定周期で特定のコマンドを送信することや、何らかの受信に答えて、特定のデータを送信することなどが、できます。簡単な通信プロトコルの実現も可能です。

さらに、日付時刻機能も有しています。スクリプトで、日付時刻をログファイルに書き込むことが出来ます。

記述したスクリプトは、一部を、弊社が提供しているフリーソフト「CMLogger」を用いて、パソコン上でシミュレートできます。

パソコン上で動作を確認してから、SDロガー「スクリプト版」に実装することができます。

スクリプト言語の仕様については別途下記の資料をご参照ください。

「SD/CFロガー スクリプト言語 リファレンス形式 (X507018)」

「CFロガー スクリプト言語 チュートリアル形式 (X507019)」

資料の表題にはCFロガーとあるものもありますが、SDロガーでも同様に機能します。

【コマンド版】

SDロガー「コマンド版」は、シリアル通信(RS-232C)でコマンドをやりとりすることで、SDカードのファイルデータを、読み書きできる装置です。

カードのデータは、市販のカードリーダーを使用することで、パソコンで読み書きできます。

コマンドの仕様は別途下記の資料をご参照ください。

「CFロガー(コマンド版) コマンド通信仕様 (X507016)」

「CFロガー(コマンド版) コマンドリファレンス (X507017)」

「日付・時刻コマンドリファレンス (X519005)」

資料の表題にはCFロガーとありますが、SDロガーでも同様に機能します。

※SDロガーは「コンフィギュレーションモード」による設定変更で、「スクリプト版」、「コマンド版」を、切り換えることができます。

※弊社が提供するフリーソフトは、弊社ホームページからダウンロードしていただけます。

2. バリエーション

この取扱説明書では、SDロガーのつぎの機種について説明します。

機種	呼称	出荷時機能	外装
(ベーシック版)			
DT-MC04-XS	SDロガー4	スクリプト版	基板
DT-MC04-XC	SDロガー4	コマンド版	基板
DT-MCK4-XS	SDロガー4	スクリプト版	ケース
DT-MCK4-XC	SDロガー4	コマンド版	ケース

※「スクリプト版」は、元来の「ノーマル版」の機能を包括します。

3. コンフィギュレーションモードによる設定変更

ロガーでは、「コンフィギュレーションモード」で設定変更することができます。

設定変更できる項目は、つぎのとおりです。

項目	選択肢
機能	スクリプト版
	コマンド版
データビット ※1	8[ビット]
	7[ビット]
ストップビット ※1	1[ビット]
	2[ビット]
ビットレート ※2	300[bps]
	1,200[bps]
	2,400[bps]
	4,800[bps]
	9,600[bps]
	19,200[bps]
	38,400[bps]
	57,600[bps]
115,200[bps]	
フロー制御	RTS によるフロー制御を行なわない (DISABLE)。
	RTS によるフロー制御を行なう (ENABLE)。
自動クリア	通信エラーの自動クリアを行なわない。
	通信エラーの自動クリアを行なう。

※1:ディップスイッチ 6 が ON の場合

※2:ディップスイッチ 1~3 がすべて ON の場合

設定変更の方法については、別途下記の資料をご参照ください。

「DTMCHostの使い方 (X519006)」

4. 仕様

項目	内容	備考
ボーレート(bps)	300, 1200, 2400, 4800, 9600, 19200, 38400, 57600 115200	
データビット	7ビット 8ビット	※1
ストップビット	1ビット 2ビット	VII章-4参照
パリティ	なし 奇数 偶数	
ファイルシステム	FAT16、FAT32	V章-1参照
カード	SDカード(SDHCに対応)	※2
RS-232C	D-SUB 9ピン オス コネクタ	固定ねじ: インチ(#4-40UNC)
電源	DC 8V~12V	
消費電流	標準100mA 最大150mA	
使用温度範囲	0°C~60°C	
時間精度	±0.01%	スクリプト WAIT TIME 文
内蔵時計精度	月差±60秒以内	@25°C
内蔵時計用電池	CR2032	標準電池寿命7年 ※3

(注)メモリーカード、接続ケーブルは付属していません。

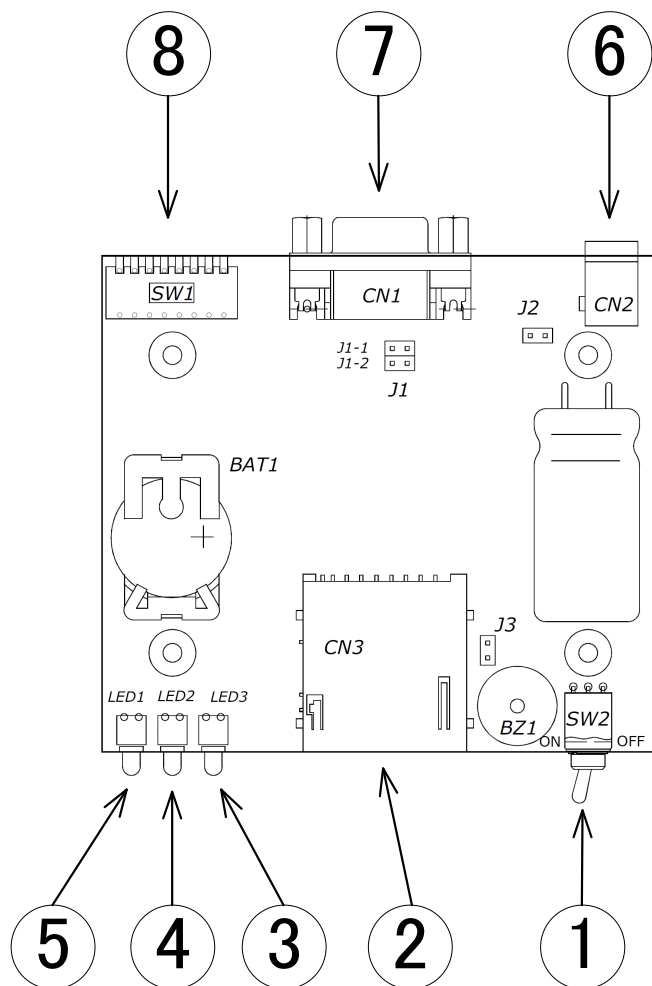
※1 コンフィギュレーションモード、アップデートモードでは8ビットのみ使えます。

※2 SDXCカードには対応していません。

※3 製品出荷時に装着されている電池は、ご購入時点から電池寿命7年を保証するものではありません。

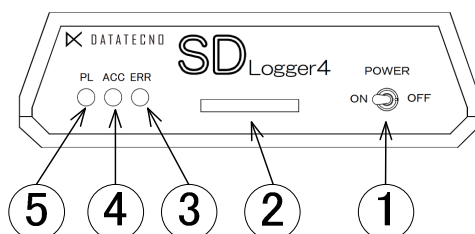
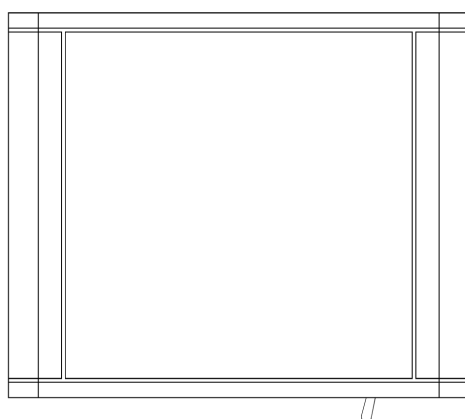
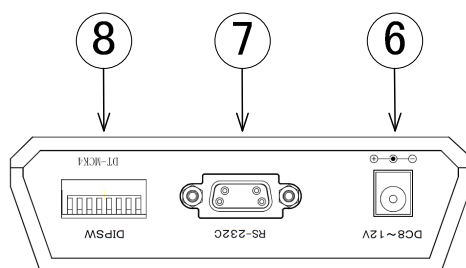
5. 各部の名称

【基板タイプ】



番号	記号	内容
①	SW2	電源スイッチ
②	CN3	メモリーカード用コネクタ
③	LED3	赤LED (エラー)
④	LED2	黄LED (アクセス)
⑤	LED1	緑LED (パイロット)
⑥	CN2	DC電源コネクタ (DCジャック)
⑦	CN1	RS-232Cコネクタ (D-Sub 9ピン オス) 固定ねじ: インチ (#4-40UNC)
⑧	SW1	ボーレートその他設定用ディップスイッチ

【ケースタイプ】



番号	記号	内容
①	POWER	電源スイッチ
②		メモリーカード用コネクタ
③	ERR	赤LED(エラー)
④	ACC	黄LED(アクセス)
⑤	PL	緑LED(パイロット)
⑥	DC8~12V	DC電源コネクタ(DCジャック)
⑦	RS-232C	RS-232Cコネクタ(D-Sub 9ピン オス) 固定ねじ:インチ(#4-40UNC)
⑧	DIPSW	ボーレートその他設定用ディップスイッチ

II 設定

1. ディップスイッチ設定とコンフィギュレーション設定

SDロガー4は、ディップスイッチ設定で切り換えできる機能と、コンフィギュレーション設定で切り換える機能があります。

コンフィギュレーション設定は、パソコンと接続して行ないます。

コンフィギュレーション設定については、「I章-3参照」や、詳細については、「DTMCHostの使い方 (X519006)」をご参照ください。

項目	ディップ スイッチ	コンフィギュ レーション	備考
ビットレート			
300 [bps]	×	○	
1,200 [bps]	×	○	
2,400 [bps]	◎	○	
4,800 [bps]	◎	○	
9,600 [bps]	◎	○	
19,200 [bps]	◎	○	
38,400 [bps]	◎	○	
57,600 [bps]	◎	○	
115,200 [bps]	◎	○	
パリティ			
なし	○	×	
奇数	○	×	
偶数	○	×	
データビット			
8ビット	◎	○	
7ビット	×	○	
ストップビット			
1ビット	◎	○	
2ビット	×	○	※1
フロー制御			
行なわない	△	○	
行なう	×	○	

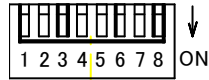
(つぎページへ続く)

(続き)

項目	ディップ スイッチ	コンフィギュ レーション	備考
通信エラーの自動クリア			
行なわない	×	○	
行なう	△	○	
機能			
スクリプト版	×	○	
コマンド版	×	○	
<p>◎ 設定できる。ディップスイッチ設定を優先できる。</p> <p>○ 設定できる。</p> <p>× 設定できない。</p> <p>△ デフォルト設定。コンフィギュレーション設定で変更されたものを、ディップスイッチで変更できない。</p>			
<p>※1 スクリプトで設定することも出来ます。</p>			

2. ディップスイッチ

ディップスイッチ [DIPSW(SW1)]



スイッチは左から[1]～[8]となっています。スイッチは上がOFFで下がONです。

(設定例)

内容	9600bps、データ8ビット、1ストップビット、パリティなし(全てOFF)							
番号	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]
設定	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

1-1)ビットレートの設定

ビットレートの設定はディップスイッチの[1]～[3]を操作することによって行ないます。スイッチのON、OFFとビットレートの対応は下記表のようになります。

番号								ビットレート[bps]
[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	
OFF	OFF	OFF	—	—	—	—	—	9,600
ON	OFF	OFF	—	—	—	—	—	19,200
OFF	ON	OFF	—	—	—	—	—	38,400
ON	ON	OFF	—	—	—	—	—	57,600
OFF	OFF	ON	—	—	—	—	—	115,200
ON	OFF	ON	—	—	—	—	—	2,400
OFF	ON	ON	—	—	—	—	—	4,800
ON	ON	ON	—	—	—	—	—	コンフィギュレーション設定に従う。

1-2)パリティ

パリティの設定はディップスイッチの[4]と[5]を操作することによって行ないます。スイッチのON、OFFとパリティの対応は下記表のようになります。

番号								パリティ
[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	
—	—	—	OFF	OFF	—	—	—	なし
—	—	—	ON	OFF	—	—	—	奇数
—	—	—	OFF	ON	—	—	—	偶数
—	—	—	ON	ON	—	—	—	なし(将来の拡張用)

1-3) データビット・ストップビット

データビット・ストップビットの設定はディップスイッチ[6]を操作することによって行ないます。

スイッチのON、OFFとデータビット・ストップビットの対応は下記表のようになります。

番号								データビット・ストップビット
[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	
—	—	—	—	—	OFF	—	—	データビット8・ストップビット1
—	—	—	—	—	ON	—	—	コンフィギュレーション設定に従う。

※コンフィギュレーションモード、アップデートモードでは、コンフィギュレーション設定で、データビット7を設定しても、データビット8で動作します。

1-4) モード

モード設定はディップスイッチ[7]と[8]を操作することによって行ないます。

スイッチのON、OFFとモードの対応は下記表のようになります。

番号								モード
[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	
—	—	—	—	—	—	OFF	OFF	通常
—	—	—	—	—	—	ON	OFF	コンフィギュレーションモード
—	—	—	—	—	—	OFF	ON	ステータス表示(メンテナンス)モード
—	—	—	—	—	—	ON	ON	アップデート(プログラミング)モード

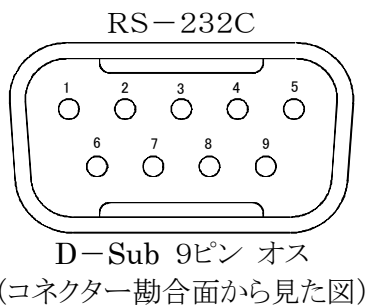
※メンテナンスモードは、メンテナンス情報を確認するときや、弊社がメンテナンスを行なうためのものです。通常は、非メンテナンスモードで使用してください。

※カードを装着していると、コンフィギュレーションモード、アップデートモードには、なりません。コンフィギュレーションモード、アップデートモードでご使用になるときは、カードを取り外してください。

III 接続

1. RS-232Cケーブルの接続

RS-232C コネクターの接続は間違いのないように各信号を確認してください。
コネクターのピンアサインは下記の通りです。



ピン番号	名称	内容	信号の方向	
1	NC	未接続(注1)		ロ ガ ー 側
2	RXD	受信データ	→	
3	TXD	送信データ	←	
4	DTR	データ端末レディ、6番ピンと接続	←	
5	GND	信号グラウンド		
6	DSR	データセットレディ、4番ピンと接続(注1)	→	
7	RTS	送信要求(通常はハイレベル、注3)	←	
8	CTS	送信許可(未使用、注4)	→	
9		未使用(注2)		

(パソコンのRS-232Cと接続する場合はクロスケーブルになります。)

(7ピンのRTSを使ったフロー制御は「VII その他の機能/3. フロー制御」を参照してください。)

(注1)ジャンパー設定により外部から電源のON、OFFをするための端子として使えます。「VII その他の機能 2. ジャンパースイッチ」をご覧ください。

(注2)ジャンパー設定により外部から電源を供給する端子として使えます。「VII その他の機能 2. ジャンパースイッチ」をご覧ください。

(注3)スクリプト言語により制御できます。

(注4)スクリプト言語の制御に使うことができます。

2. 電源

DC電源(DC8V~12V)はDC電源コネクタ(DCジャック、基板の場合はCN2)から供給してください。

適合DCプラグは内径φ2.1、外形φ5.5のものを使用してください。

ACアダプターを使用される場合のDCプラグは適合したものを選択してください。

ACアダプターをお使いになる場合は、スイッチングレギュレータタイプをおすすめします。
(センターがプラスです)



IV 使用手順

1. 使用手順

手順1. メモリーカードのセット

ロガーにメモリーカードをセットします。

手順2. 電源スイッチ (POWER/SW2) ON

電源スイッチを[ON]の側にすると電源が入ります。

電源スイッチを[ON]の側にすることを、「電源スイッチをONにします」と表現します。

緑LED (PL/LED1) が点灯し、黄LED (ACC/LED2) が消灯すれば準備完了です。

手順3. 電源スイッチ (POWER/SW2) OFF

データの受信や、コマンドのやり取りなどが終わり、作業を終了するには、電源スイッチを[OFF]の側にします。

電源スイッチを[OFF]の側にすることを、「電源スイッチをOFFにします」と表現します。

オープンしているファイルを閉じたあと自動的に電源が切れます。

*これでメモリーカードをとりはずすことができます。

カードにアクセス中の場合、電源スイッチをOFFにしても、実際に電源が切れるまでに時間がかかることがあります。

カードアクセスの確認は、黄LED表示で行なってください。

カードの抜き差しは、全LEDの消灯を確認してから行ってください。

2. LED表示・ブザー鳴動

LEDはつぎのように表示します。

パイロットランプ(緑) ● PL/LED1	点灯	電源ON状態。
-----------------------------	----	---------

アクセ斯拉ンプ(黄) ● ACC/LED2	点灯	メモリーカードにアクセス中。 バッファにデータを保持中。
	点滅	コンフィギュレーションモードのとき。

エラーランプ(赤) ● ERR/LED3	1回点滅	カードが装着されていない。
	2回点滅	カードアクセスでエラー。
	3回点滅	データ通信上のエラー。
	点滅	アップデートモードのとき。

ブザーはつぎのように鳴動します。

ブザー	アクセ斯拉ンプ(黄、●)が点灯を開始するとき、短く鳴ります。 ※コンフィギュレーションモードの点滅では鳴りません。
	エラーランプ(赤、●)の点滅と同じように鳴ります。 ※アップデートモードの点滅では鳴りません。

ブザーの鳴動は、ジャンパースイッチ、J3を外すことで、止めることができます。
ジャンパースイッチの外し方は、「VII. 2」章をご覧ください。

V ファイル

1. ファイル制御システム

ロガーは、ChaN氏作成のFatFsファイルシステムを使用させて、いただいています。有能なファイルシステムを提供されているChaN氏に感謝すると共に、敬意を表します。長いファイル名には対応していません。

2. ログファイル【スクリプト版】

ファイルの名称 [4桁の16進数]. LOG

(例)
0000.LOG
0001.LOG
0002.LOG

ログファイルには、既存のファイルと重ならない名前が付けられます。ファイルの存在を、「0000.LOG」から「FFFF.LOG」に向かって検索し、最初に見つかった、存在しなかったファイルの名前が、ログファイル名として使われます。

※スクリプトにより、拡張子を変更することも出来ます。

3. サブディレクトリ

「スクリプト版」の場合は、つぎのサブディレクトリ機能が働きます。ルートディレクトリに「LOGDATA」というディレクトリが存在していれば、そのディレクトリ下にログファイルが作られます。

「LOGDATA」というディレクトリが無ければ、ログファイルはルートディレクトリに作られません。

「コマンド版」にはサブディレクトリの機能はありません。

4. ファイル数の上限

ロガーがロギングできるファイル数の最大は 65536 個[*1]です。

ただし、FAT16のルートディレクトリには、一般に 512 個[*2]のファイルしか作れませんので、ロガーもこの制限に準じます。

サブディレクトリに作れるファイルの最大数は、一般には 65534 個[*2]に制限しているようですが、ロガーでは、65535 個[*2]以上のファイルも作れます。

そして弊社の検証では、ロガーが作った 65535 個目、65536 個目のファイルも、パソコンで読み出すことができます。

[*1]ロガーが作成するロギングファイルの最大数です。

[*2]ロギングファイル以外のファイルも含めた最大数です。

起動時間

カード内に存在するファイル数が多くなると、起動に時間がかかり、実用的ではありません。

つぎの表は、ある特定の条件下での、ファイル数に対する起動時間の目安です。

ファイル数	512 個	1024 個	4096 個	10000 個
起動時間	1.3 秒	2.1 秒	16.9 秒	1 分 29.6 秒

※あくまでも目安値であり、保証値ではありません。

5. コマンド版のファイル仕様【コマンド版】

ファイルの名称 半角英数8文字+3文字拡張子
(ロングファイル名には対応していません)

コマンド版で扱えるファイル名の詳細は「コマンド通信仕様」をご参照ください。

コマンド版では、サブディレクトリ機能は使えません。

6. スクリプトファイル【スクリプト版】

「スクリプト版」の場合、装着されているメモリーカードに「SCRIPT.TXT」、または「SCRIPT.SCR」という名前のファイルが存在すれば、それがスクリプトファイルとして読み込まれます。

スクリプトファイルは電源スイッチをONし、電源を起動させたときに、読み込まれ、実行が開始されます。

スクリプトファイルの読み込みは、ディレクトリ「LOGDATA」が存在する場合でも、ルートディレクトリから読み込まれます。

スクリプトファイルでは、LF (0x0A) を行の終わりと判断します。

スクリプトファイル中に現れるCR (0x0D) は、無視されます。

7. 書き込みスピード

カード内のデータ量が増えてくると、書き込みスピードが低下し、実用的ではありません。

書き込みスピードが要求される場合は、フォーマット直後か、データがまだあまり記録されていないカードを使用されることをお勧めします。

データ量が多い状態でのご使用には、フロー制御の使用も検討ください。

コマンド版では応答の確認をしっかりと行ってください(応答が返るまでの時間が長くなります)。

注意項目

1バイトの書き込みに時間がかかっている場合、その間電源スイッチを切っても、電源はすぐには切れません。

状況によって、電源スイッチを切っても1分以上電源が切れない場合も発生します。

そのような場合には、電源スイッチを切っても、全LEDが消えるまで、カードの抜き差しや、元電源の遮断はお待ちください。

VI 電源遮断への対応

1. オートシンク機能

3秒間データが途絶えると、バッファに残っているデータを、カードに書き込むと共に、ファイル構造の一貫性を回復させます。

これにより、突然の電源遮断でも、3秒以上前に受信したデータは失われることはありません。

また、3秒以上データを受信していない状態で電源供給が遮断されても、ファイル構造を破損させることはありません。

2. コンデンサーバックアップ

外部からの供給電源が遮断しても、コンデンサーにより内部電源が確保されます。

電源スイッチがONのまま、DC電源コネクタへの電源供給(主電源)が遮断されても、バックアップ用コンデンサーから電源が供給され、シャットダウン処理が行われます。

シャットダウン処理が終了するとロガーは、内部への電源供給を、自ら断ち切ります。

バックアップ用コンデンサーから電源の供給を受けるのは、シャットダウン処理を行なっている、わずかな時間です。

オートシンク、コンデンサーバックアップにより、外部からの電源供給が突然遮断されても、ファイル構造を破損させる可能性は低くなっています。

注意事項

シャットダウン処理に要する時間は、ご使用されるカードなどの使用条件により、変わります。

一方、コンデンサーでのバックアップ時間には限りがあります。

ご使用される条件において有効性を、十分ご検証していただくことをお願いします。

VII その他の機能

1. 日付時刻設定

日付時刻の設定は、ロガーをパソコンに接続し、パソコン側専用ソフト(DTMCAdjustment Host)を実行して行ないます。

詳細は別資料、「DTMCAdjustmentHost の使い方<X514005>」を、参照してください。
ご購入後、ご使用前には、日付時刻の設定をご確認ください。

2. ジャンパースイッチ

この設定はケース入りの場合、ケースの裏側のビスを取りはずし、上カバーをはずして行ないます。

基板上にシルク印刷されているスイッチやコネクタの番号や、つぎのページの写真を参考に、行なってください

(本製品にはブザー用以外に、短絡用ジャンパーソケットは付属していません。)

J1：外部からの電源制御

J1-1 または J1-2 を短絡することで、CN1 D-sub コネクタを介してボードの電源スイッチの ON/OFF ができます。

短絡するジャンパー	外部電源コントロール端子
J1-1	CN1 D-Sub 1 番ピン
J1-2	CN1 D-Sub 6 番ピン

+2.5~+15V でボードのスイッチ ON、-15V~+0.8V でボードのスイッチ OFF となりますので、RS-232C レベルでも、+3.3V~+5V の C-MOS レベルでも制御できます。

この機能を使う場合は、電源スイッチ (POWER/SW2) は OFF にしておきます。

※ D-sub 6 番ピンは本機上で 4 番ピンにループバックしています。D-sub 6 番ピンでボードの電源制御を行なう場合は、接続する機器のハンドシェイクラインに影響がないことをご確認ください。

J2：外部へ(または外部から)の電源供給。

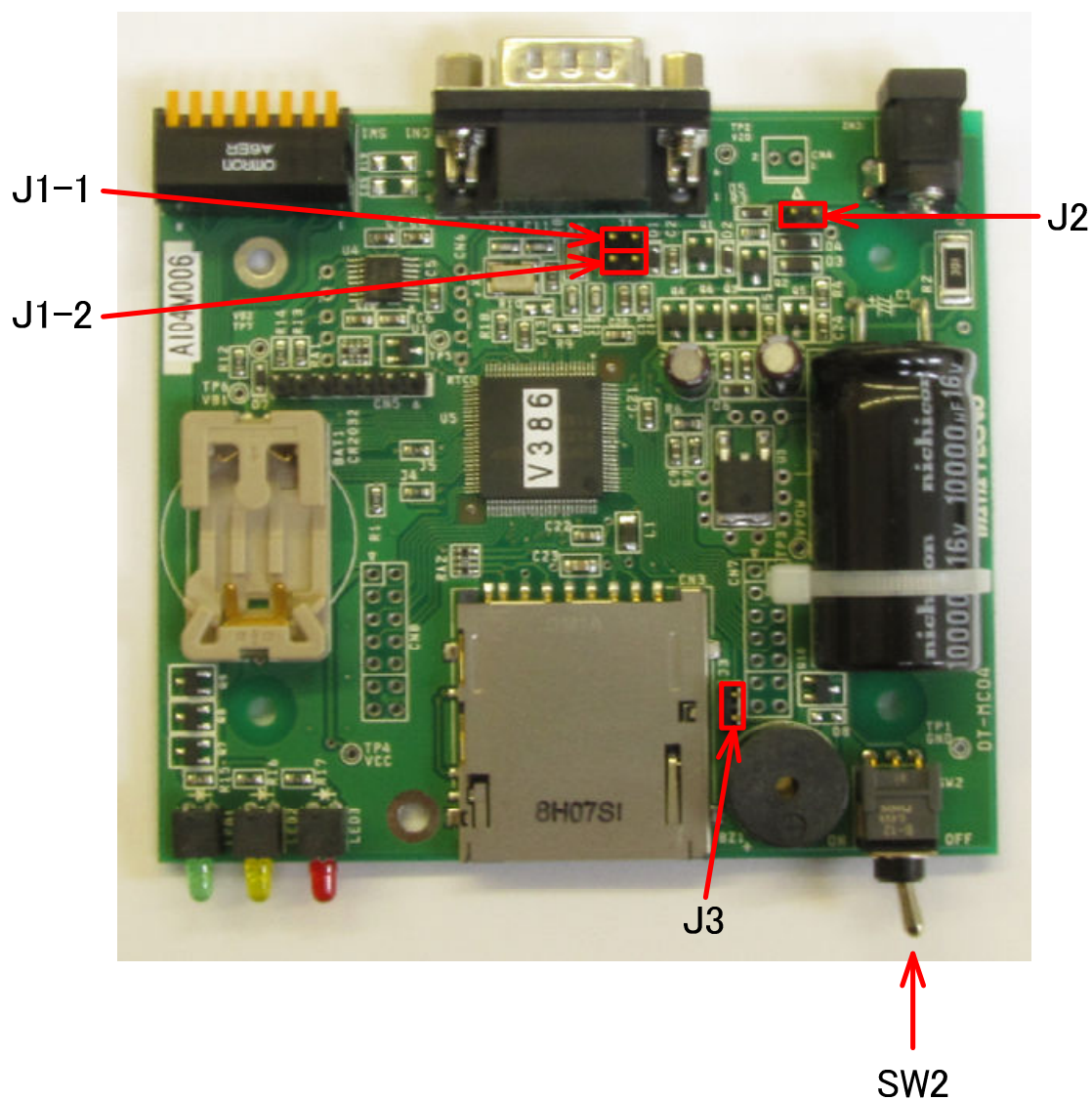
J2 を短絡すると、CN1 D-sub 9 番ピンが CN2 DC ジャックの +ピンと接続されますので、AC アダプタを使う代わりにこのピンを通じて電源 (DC8V~12V) 供給をすることができます。

(注)この J1 と J2 の機能を使用される場合は、十分にご理解の上、配線など間違いのない様にご注意ください。

J3：ブザーの鳴動の停止。

J3 を外す (オープンにする) と、ブザーの鳴動を止めることができます。

ジャンパスイッチや電源スイッチの写真



3. フロー制御

コンフィギュレーションモードによる設定変更で有効にすることにより、RTS信号によるフロー制御が行なえます。

フロー制御が有効に設定されている場合、ロガー内の受信バッファが残り少なくなればRTS信号がOFFにされ、残り容量が増えればONにされます。

カード内のデータの、配置のされ方などにより、データを記録するのに、まれに時間がかかる場合があります。

そのような状況で、高速に、大量にデータを受信すると、受信バッファがオーバフローすることがあります。

受信バッファがオーバフローするような場合には、フロー制御の使用をご検討ください。

なお、受信バッファの容量、フロー制御のしきい値はつぎの通りです。

	容量[bytes]	
	スクリプト版	コマンド版
受信バッファ容量	4096	4096
RTS ON しきい値	768	768
RTS OFF しきい値	512	512

スクリプト機能との競合

フロー制御を有効にしても、スクリプト言語でのRTS制御が効いてしまいます。

スクリプト言語で、RTS信号を制御した場合は、正しいフロー制御ができないこととなりますので、ご注意ください。

4. メンテナンス情報

ディップスイッチでメンテナンスモードに設定して、電源スイッチをONすると、つぎのようなメンテナンス情報を送信します。

RS-232Cコネクタ(CN1)からパソコンに、RS-232C クロスケーブルで接続し、ターミナルソフトを用いると、ロガーの状態を確認することができます。

メンテナンス情報(例)

DT-MC04 Basic V385 (2018-08-27)	←ファームウェアのバージョンなど
dipsw:01	←ディップスイッチの状態
Model:0412	
script model	
fatfs	
rts disable	
Remain MemPool:031A	

※これは、一例です。実際には、ファームウェアのバージョンや、使用状況に応じた表示がされされます。

VIII 強化された機能・ロガー3との違い

SDロガー4は、従来のSDロガー3に比べ、つぎの機能が強化されました。

1. 高速ビットレートが追加されています。

ビットレート 115200 (bps) が追加されています。

2. ステータスファイル

電源起動時に、ロガーの状態が、下記のステータスファイルに書き出されます。

ステータスファイルをパソコンに取り込み、エディタなどで見ることで、設定状態や、動作状態を確認できます。

●ステータスファイル

ファイル名	STATUS.TXT
フォルダー	ルートフォルダー

●ステータスファイルの書式

項目	例
名称・バージョン	DT-MC04 V400
起動時間	2018/02/15 12:57:34
モデル	script
通信設定	9,600bps 8bits 1stop parity:non
フロー制御	rts-control:disable
通信エラー自動クリア	comm-error:auto-clear

ステータスファイルは、電源起動ごとに毎回書き換えられ、最後に起動したときの状態が、確認できます。

ただし、ステータスファイルが、書き込み禁止属性などに設定されていると、書き換えられません。

ステータスファイルの書き込みでエラーが発生しても、LED点滅や、ブザー鳴動はせず、それ以降の動作はそのまま続きます。

3. カードからのアップデート

装着する SD カードに特殊なファイルを置くことで、自身の内部プログラムをアップデートすることができます。

アップデートを行なわせるためには、弊社から提供するアップデートモジュールファイル（「DTMC04_X_VXXX_UDM.fu2」など）を、「UPDATE.FU2」というファイル名にリネームし、カードのルートフォルダーにコピーしてください。

そして、ロガーの電源スイッチを入れてください。

ロガーの電源スイッチが入れられたときに、「UPDATE.FU2」というファイルが見つかると、内部プログラムのアップデートが始まります。

アップデートが始まると、赤 LED が点滅を始め、黄 LED が点灯し、ブザーも短く鳴ります。

アップデートは数秒で終了し、黄 LED は消灯します。

アップデートが行われたあとは、赤 LED の点滅が続き、電源スイッチを切るしか出来ません。

黄 LED が消灯するのを確認して、電源スイッチを切ってください。

つぎに電源スイッチを入れたときは、アップデートされた内部プログラムが実行されます。

アップデートが正常に行われると、アップデートモジュールファイルは、「UPDATE.OK」にリネームされます。

アップデートは一度きりで、同じアップデートが何度も行なわれることは、ありません。

4. スクリプトと受信データの同期

MC04では、スクリプトの実行と、受信データのログとの、同期がとられるようになり、データを高速に受信した場合も、スクリプトが「#LOG」文で行なうロギングと、受信データのロギングとのあいだに、ずれが生じなくなりました。

5. 通信エラーの自動クリア

通信エラー自動クリアに設定（デフォルト）されていると、通信エラーによるLED表示、ブザー鳴動は、つぎに正常に受信したとき、クリアされます。

自動クリアがエラー発生後、短時間でされる場合でも、最低3回は点滅、鳴動されます。

6. その他の強化点

コマンド版の、「全ファイル削除(E:*.*)」コマンドが、FatFs (FAT32対応ファイルシステム)でも、使用可能です。

(SDロガー3では、FATSYS (従来型FAT16ファイルシステム)のみ、可能でした)

誤消去防止ツメが、書き込み禁止位置でも、読み出しが可能になりました。

(SDロガー3では、書き込み禁止だと、読み出しも出来ませんでした)

コマンド版の場合、日付時刻取得・設定が、コンフィギュレーションモードでなくても、可能です。

(SDロガー3では、コンフィギュレーションモードでないと、出来ませんでした)

7. ロガー3との主な違い

ディップスイッチ設定の割り付けが、変わっています。

一部の設定は、コンフィギュレーションモードで行なうように変更されています。

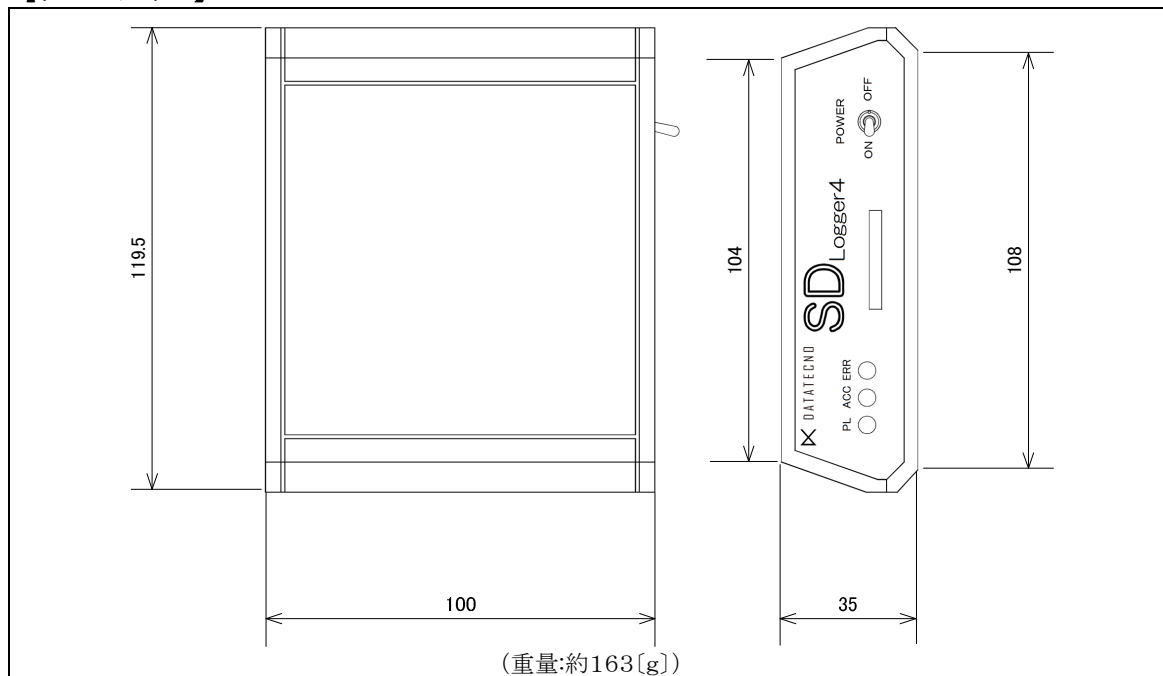
FATSYS (従来型FAT16ファイルシステム)は廃止され、FatFs (FAT32対応ファイルシステム)のみと、なりました。

FatFs (FAT32対応ファイルシステム)でも、FAT16のカードは使用可能です。

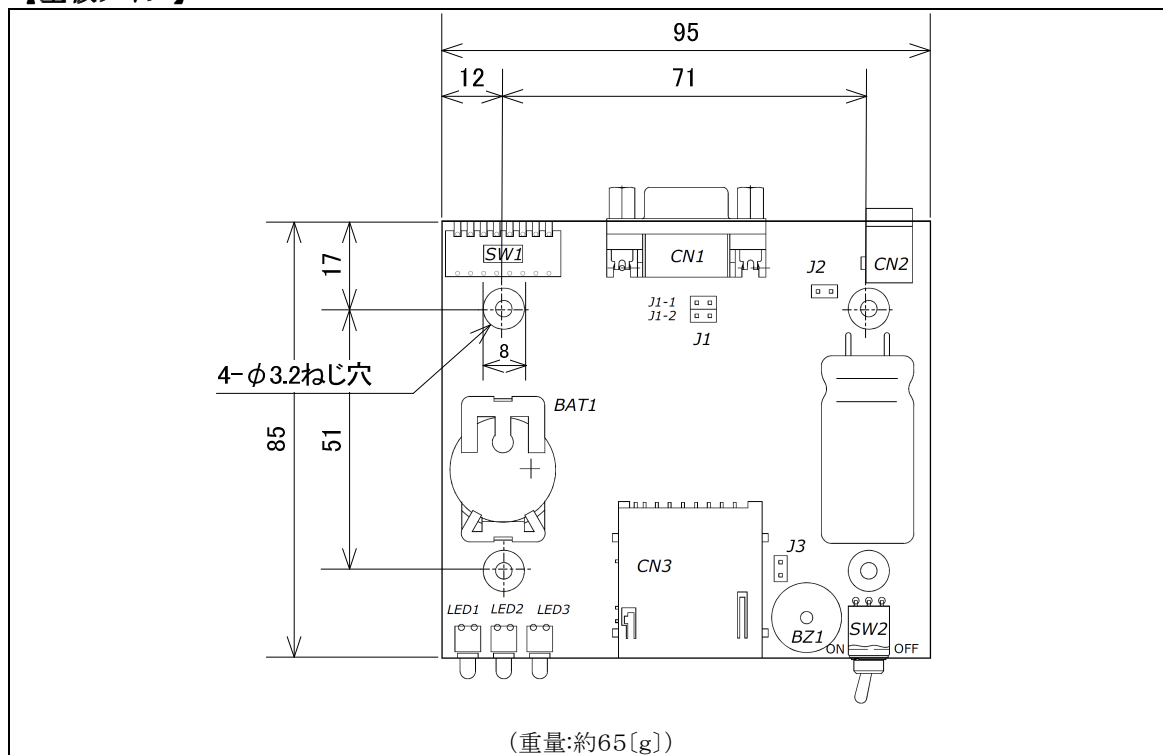
時計用電池がCR1220→CR2032に変更になりました。

IX 外形寸法図

【ケースタイプ】



【基板タイプ】



X 注意事項・その他

1. カードの抜き差し

カードの抜き差しは原則として、電源スイッチを切り、全LEDが消灯している状態で、行なってください。

2. 保証規定

保証期間は、納入後1年間とします。

本製品を、正しいご使用状態のもとで万一装置が故障した場合、本保証規定に従って無償修理いたします。

ただし、つぎのような場合は、保証期間内でも、有償修理となります。

- (1) ご使用上の誤りによるもの。(2) 誤接続によるもの。
- (3) 間違った電源供給によるもの。
- (4) お客様自身による改造や、修理が施されているもの。
- (5) 火災、地震、風水害、落雷およびその他の天災地変、公害、塩害、ガス害(硫化ガス等)などによるもの。
- (6) 消耗によるもの。(7) 落下等によるもの。(8) 外力により損傷したもの。
- (9) 海外でのご使用によるもの。

3. センドバック修理

修理はすべて、直送で対応いたします。故障した製品を弊社へ直送いただき、修理後お客様のもとへ、直送で返却いたします。

送料は、弊社への送付時にはお客様のご負担で、弊社からお客様への返却時には、弊社負担とさせていただきます。

4. 修理見積

修理費用は、弊社の判断で、見積りを出させていただく場合があります。

5. 免責事項

弊社では信頼性の向上に努めておりますが、本製品の使用に基づく損害等について、全ての責任を負えるものではありません。

本製品は、高信頼性用途へのご使用は、意図されておりません。

本製品は日本国内向け仕様であり、海外でのご使用については、一切責任を負えません。